

関係者ヒアリングの結果

I. 概要

1) 目的

学校の再編にあたり、教育環境の実態を関係者の方からお聞きするために実施しました。ヒアリングでは各務原市独自、あるいは各学校独自の継承すべき利点と解決すべき課題について把握しました。

2) 実施日

下記の日時で自治会連合会長等及び市PTA連合会の方にヒアリングを実施しました。

表 ヒアリングの概要

ヒアリング実施団体	日時
中央中学校区	2025年09月29日09時00分～10時00分
緑陽中学校区	2025年09月29日10時30分～11時30分
蘇原中学校区	2025年09月29日12時00分～13時00分
那加中学校区	2025年10月01日08時30分～09時30分
市PTA連合会	2025年10月01日10時30分～11時30分
川島中学校区	2025年10月01日14時30分～15時30分
稻羽中学校区	2025年10月01日16時00分～17時00分
桜丘中学校区	2025年10月02日17時00分～18時00分

※鵜沼中学校区は、日程の調整により11月実施予定

3) 設問項目

設問項目については基本的には大項目について質問しながら、会話形式で実施しました。

表 設問項目

大項目	ヒアリング内容
学校施設の現状と老朽化について	・自治会などのイベントの観点でみた学校施設の現状について
市独自・学校独自の教育環境	・自治会と教育との関連性について
学校施設を活用した活動	・自治会や体育振興会等の学校施設やその他施設を活用した活動実態について
学校の再編について	・学校再編における配慮事項について ・適切な学校規模について ・学校跡地の活用について ・整備方針・学校区割について

2. ヒアリング結果

ヒアリングした結果、以下のような意見をいただきました。

1) 学校施設の現状と老朽化について

市民活動における学校施設の利用において、学校施設の現状として特段不自由があるといった話は聞かれませんでしたが、一部の校区からはグラウンドを駐車場として活用している点や学校校舎の老朽化が進んでいる点が課題という意見が得られました。

【主な意見】

- ・グラウンドを駐車場として活用するのは良くないと考えており、小学校によっては硬くて狭い場所もある。(中央中学校区)
- ・那加第一小学校は学校校舎の老朽化が進んでいる現状がある。(那加中学校区)

2) 市独自・学校独自の教育環境

教職員に対して別途アンケート調査を実施したため、本ヒアリングで特段多くの意見を得ることはできませんでしたが、一部の校区からは自治会が教育に関与するべきではないという意見や自治会主催のイベントである市民運動会は誰もが参加できることから、異学年交流を実現しているといった意見が得られました。

【主な意見】

- ・自治会はなるべく教育に対して意見をするべきではないと考えている。自治会が関与する分野が広がりすぎてしまう。(緑陽中学校区)
- ・小中一貫ではないが、課外活動の中で同様の取り組みをこれまで実施している印象がある。市民運動会は良い例である。運動会や体育祭は学校行事であることから、授業の一環ということで保護者が参加できないが、市民運動会は保護者も自由に参加できる。現在は幼稚園やこども園、中学生も参加している。(川島中学校区)

3) 学校施設を活用した活動

学校施設を活用した自治会が主催するイベントは主に市民運動会が挙げられましたが、実施している中学校区は半数程度でした。そのほか、青少年育成や体育振興会、社会福祉協議会といった団体が定期的にイベントを開催している実情があり、中には学校敷地に社会福祉協議会がビオトープを設置している校区もありました。基本的にはグラウンドのみを利用し、学校校舎を活用したイベントは特段聞かれませんでした。また、活動にあたっては自治会に加入する人が減少している意見や一部の活動がボランティアに頼っていることから学校再編することで参加できる方も増加するのではないかといった意見が得られました。

【主な意見】

●活動の実態

- ・秋の運動会や地域の敬老会といった集まりで年に二・三回は小学校グラウンドや中学校体育館を借りてイベントを実施しているが、以前よりも規模は小さくなった。(緑陽中学校区)
- ・社協は学校敷地にビオトープを整備し、有志がボランティアで管理している。また、学校敷地外に畠を整備して、イベントの一環で子どもを招いている。(蘇原中学校区)
- ・市PTA連としては3年前から始まった取り組みで鵜沼第一小学校体育館を利用して周辺の小学校と合同のドッヂボール大会を開催している。去年は各務原市全体で開催した経緯もある。他にも中央小学校を利用してロケットをあげるイベントも春に開催している。(市PTA連合会)

●活動の継続性

- ・自治会に入らない人も増えてきている。無宗教になったことで神社に興味がないことや自治会に入ることで側溝掃除やごみの管理、消防などの義務が多いことが理由として挙げられるのではないか。(那加中学校区)
- ・緑陽中学校でクリーン活動を実施したが、地域のボランティアの方が多く参加し、保護者があまり参加しなかったことから、地域のボランティアに頼っている現状がある。学校再編がなかった際に、こうしたボランティアの方が今後も参加してくれるのか不安である。(市PTA連合会)

4) 学校の再編について

多くの校区から通学距離に関する懸念の声が聞かれ、スクールバスの導入について検討するべきという意見が得られました。また、学校規模については小規模校の方が一人一人に向き合うことができるといったメリットはあるものの、コミュニティの固定化といったデメリットがあることや、一定の児童数を確保することで競争関係を形成したり、他人と触れ合ったりすることが重要という意見が得られました。また、自治会やPTAの運営においても役員が少ない現状があることから一定の学校規模が望ましいという意見が得られました。それ以外にも一部の校区から学校再編にあたって、学校跡地活用や学校周辺の発展にも考慮するべきという意見やコミュニティの希薄化等を踏まえて、一定の児童生徒数を確保するために柔軟な学校区割を検討するべきといった意見が得られました。

【主な意見】

●スクールバスの導入

- ・尾崎小学校と那加第二小学校が統合する場合には、山を越える必要があるためスクールバスの導入が必須である。(市PTA連合会)
- ・新たな学校区割についてはスクールバス等もあるため、通学距離をそこまで気にする必要がないと想定される。(稻羽中学校区)

●学校規模

- ・再編によって一定程度の児童生徒数を確保し、競争関係を働かせるべきである。児童生徒数が少ないとあってゆとり教育となるとあまり成長しないと感じる。(中央中学校区)
- ・1学年10数人の規模はどうなのか疑問に思う。一定規模の中で様々なことを学び、他人とのふれあいがあることが重要である。そのため、児童数が少ないのであれば中学校区をまたいで再編する手法もあるのではないか。(蘇原中学校区)
- ・緑苑小学校では一つの学年で女の子が4人しかいなく、1人のグループと3人のグループに分かれてしまったことで一人の女の子が友達がつくりにくいといった話があった。将来的にクラス替えがなくなることでコミュニティや児童生徒のイメージが固定化されてしまうのは大きなデメリットである。イメージの固定化によって発言内容の幅も狭くなってしまう。一方で、学校を広く利用できるのは小規模校のメリットである。(市PTA連合会)
- ・学校再編によってPTAが一緒になる場合にはそれぞれのPTAでルールが違ったりするため大変という話は聞く。しかし、ある程度の学校規模がないとPTA活動が円滑に進まないことや役員のメンバーが固定化することによる考え方の固定化につながると想定される。(市PTA連合会)

●施設形態

- ・小中一貫校を整備するのは一つの手段である。(緑陽中学校区)
- ・市全体で義務教育学校を整備する方針なのか。一部の校区のみ義務教育学校が整備されれば各務原市全体で教育の不平等が生まれるのではないか。(市PTA連合会)
- ・単純に児童生徒数が減少していることだけを理由とした再編は許容できないが、教育の質を高めるためであれば許容でき、その結果施設一体型小中一貫校を含めたよりよいアイデアが生まれるのでないか。(稻羽中学校区)

【主な意見】

●学校跡地

- ・学校跡地についてはマンションを整備しても需要がないと想定されるが、民間事業者に売却することは一つの手段である。(中央中学校区)
- ・学校が廃校になることによって、地域の活力が低下することが想定される。将来的に高齢者だけになってしまうのではないかと懸念の声がある。(緑陽中学校区)
- ・跡地活用については、廃校となった建物を有効利用するべきである。防災拠点を整備するのであればもっと山の麓にあるべきである。(緑陽中学校区)
- ・学校だけでなく、学校周辺の発展についても検討してほしい。そのため、地域全体を踏まえた検討が必要である。(稻羽中学校区)
- ・普通学していた学校がなくなるのは寂しいという話は50歳以上の方から聞く印象である。しかし、大人の情緒的なことよりも子どもの教育環境の整備を優先するべきである。そのため、学校統合にあわせて学校跡地に別途代替機能が入ることで地域が活性化すればよいと考える。(桜丘中学校区)

●立地

- ・今後の発展性や都市計画的視点から考えると、学校は人口密度の高い町中にあることが望ましい。(中央中学校区)

●整備方針

- ・再編にあたっては色々な考え方や意見が出るのは当然である。市としてしっかりとビジョンを見せて説明し、地域住民に納得してもらうことが重要である。市の経営に関する視点を追加しても良いのではないか。(中央中学校区)
- ・鵜沼第三地区においては、自治会の一部が鵜沼第一小学校に通学しているといったねじれが発生している。再編にあたっては自治会と通学先のずれが解消できるとよい。(緑陽中学校区)
- ・適切な規模を整理した上で、将来を見据えた建て替えをしながら、少しづつ適切な学校配置を考えていく必要があるのではないか。(桜丘中学校区)

●学校区割

- ・コミュニティの希薄化が進んでいるため、学校区の境界線を変更することにあまり抵抗はない。(那加中学校区)
- ・立地的な観点ではスクールバスを導入しながら、那加第一小学校の一部の区域から尾崎小学校へ通学することが考えられるが、該当する人達からは大反対されると想定されるため、このような校区変更は難しいと思う。(那加中学校区)

5) その他

その他の意見として、人口減少の観点から地域の祭礼の継続性について危惧する意見がみられました。一部の校区では長く住んでいる地域住民だけでなく、外から移住してきた地域住民の方に対してもヒアリングするべきという意見が得られました。

【主な意見】

- ・地域のお祭りに参加させてもらえない、という実態がある。現在は、地元や小学校区を参加対象としているが、参加者が減少している状況である。対象を限定せず、とにかく存続させたい、という思いの方もいた。地域のお祭りを存続させていくためには、対象範囲を広げ、誰でも参加できる形にしないといけないのではないか。(中央中学校区)
- ・PTA が任意団体という印象があることから、PTA に入らない人が増えてきている。そのため、そもそもの役員の数を減らすといった取り組みもしている。(市PTA連合会)
- ・各務原市で育ってきた人の意見も重要だが、外から来た人の意見も重要である。(中央中学校区)
- ・通学については下校の際に通学路の途中から家まで送り迎えする保護者もちらほらみられる。低学年と高学年で時間帯を分けて下校する際には2~3人しかいない時もあり、見守り隊が最後までついていくことができないことが課題となっている。(稻羽中学校区)